

平成 30 年 6 月 15 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2017

課題番号：25370187

研究課題名(和文)近代における義太夫節人形浄瑠璃上演資料の基礎的調査研究

研究課題名(英文)Basic research on the materials on Gidayu-bushi Joruri puppet theatre in the 19th and early 20th century

研究代表者

小島 智章(KOJIMA, Tomoaki)

早稲田大学・坪内博士記念演劇博物館・その他(招聘研究員)

研究者番号：10611147

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文):本研究は、近代における全国的な義太夫節人形浄瑠璃受容の様相を総体的、多角的に捉え直すための基礎的な資料の調査研究を目的としたもので、これまでまとまった調査がなされていない浄瑠璃関係雑誌や、素人・女流を含めた演者名鑑、番付等の調査を通じて、多くの新出(未紹介)資料を発掘し、今後のより幅広い義太夫節人形浄瑠璃研究にむけての基礎資料の充実に果たした。

研究成果の概要(英文):This study was aimed at investigating the basic materials to reevaluate from various angles how Gidayu-bushi Joruri puppet theatre had been accepted in the 19th and early 20th century throughout Japan, and I completed the fundamental research. Through this research, I discovered many unknown materials such as Joruri magazines, playbills and directories or rankings of Joruri players including nonprofessionals and women. I am convinced that this research would contribute to the further substantial studies.

研究分野：人形浄瑠璃、日本演劇

キーワード：義太夫節 人形浄瑠璃 文楽 上演資料

1. 研究開始当初の背景

これまで、近代の義太夫節人形浄瑠璃に関する研究は、現在の「文楽」に直接繋がる大阪の劇団組織とその出演者に関するものが多数を占め、かつて東京や京都にもあった劇団組織やその出演者、全国各地に存在したプロの演者、またプロの演者を支えていた素人義太夫の組織などについては、未だ十分な資料調査さえなされていないのが現状である。

近代以降、人形入りの興行を行う劇団組織の存続が困難となり、唯一生き残った「文楽座」も、公的保護を受けて財団法人化せざるを得なくなった歴史的な背景、或いは、近代以降、上演レパートリーが減少・固定化してしまった要因を正しく理解するためには、大阪の劇団組織の歴史だけでなく、全国的な義太夫節人形浄瑠璃受容の実態を総体的、多角的に捉え直す必要がある。

2. 研究の目的

本研究では、明治以降、昭和38年(「財団法人 文楽協会」設立)前後までの全国都市部における義太夫節人形浄瑠璃の上演に関わる資料(番付・プログラム類、譜入り浄瑠璃本、新聞・雑誌記事、書籍など)の基礎的な調査研究を行い、近代における義太夫節人形浄瑠璃受容の実態を、より総体的、多角的に捉え直すことを目的とする。

大阪の劇団組織を中心とした既存の年表類に未収録の上演記録を可能な限り収集し、各地の演者(素人、女流を含む)の経歴を把握することは、全国的な義太夫節人形浄瑠璃受容の実態を知るために必要不可欠な基礎的研究であり、今後のより多様な義太夫節人形浄瑠璃享受・評価の在り方を考えるうえでも、きわめて有意義であると考えられる。

3. 研究の方法

近代の義太夫節人形浄瑠璃に関わる資料を多数収蔵・公開している早稲田大学演劇博物館、国立劇場図書室、国立文楽劇場図書室、大阪市立中央図書館、大阪府立中之島図書館、京都府立総合資料館、園田学園女子大学近松研究所等の公的機関を主な調査対象とする。資料のデジタル化(デジタル写真撮影、紙焼き資料のPDF化)や、データベース化の作業を進めながら、個別のテーマ研究へむけた資料整備を行うこととする。

なお、研究開始当初予定していた名古屋地域の資料については、「御園座演劇図書館」旧蔵資料が非公開であったため、調査が及ばなかった。また、淡路については、大阪、京都の資料調査に予想以上の時間がかかったため、断念した。これらの地域については、機会をみて改めて調査を行いたい。

具体的な研究方法としては、(1) 全国主要

都心における義太夫節人形浄瑠璃の上演に関わる資料(番付・プログラム類、譜入り浄瑠璃本)、(2) 全国各地で発行されていた浄瑠璃専門雑誌、(3) 全国各地で発行されていた演者名鑑、を可能な限り調査収集し、上演資料、記事目録、人名録のデータベースを作成する。

4. 研究成果

本研究課題の前年度まで助成を受けていた研究課題「明治大正期の近松受容に関する研究」(研究活動スタート支援、2011~2012、課題番号:23820055)において、研究代表者が発見し、演劇博物館に収蔵されることとなった「豊竹山城少掾旧蔵資料」について、本研究課題においても引き続き調査研究を行い、その成果を演劇博物館における展覧会「豊竹山城少掾展」(2013年9月~12月)の展示解説、及び展覧会図録『豊竹山城少掾展』として発表した(〔図書〕(1))。

主な成果としては、豊竹山城少掾や八世竹本綱大夫、石割松太郎、鴻池幸武、武智鉄二といった浄瑠璃研究史上の重要人物たちに多大な影響を及ぼした『浄瑠璃素人講釈』(大正15年初版)の著者杉山其日庵(茂丸)へ宛てた豊竹古靱太夫(山城少掾)書簡の翻刻。戦災で焼失し、その全貌が不明となっていた戦前の蔵書目録類の翻刻。既存の上演年表・年譜類には未収録の資料を含む詳細な床年譜(出演記録)の作成等で、今後の近現代浄瑠璃史研究に不可欠な重要資料の紹介となった。

同資料に関連して、福岡県立図書館「杉山文庫」に寄託資料として収蔵される杉山其日庵宛て古靱太夫書簡全点の調査を行い、演劇博物館に収蔵される書簡群と一連のものであることを確認したが、「杉山文庫」書簡については、別に発表を予定している研究者がいるとのことで、調査のみに留めた。

また、国立文楽劇場図書室に収蔵される「山城少掾文庫」(文楽協会)のうち、閲覧が許可された全冊について、署名や蔵書印、書入れ、書誌情報等に関する詳細な追加調査を行った。戦前に石割松太郎から鴻池幸武へ伝わり、恐らくは戦後、山城少掾の蔵書となったとみられる本が多数含まれており、浄瑠璃研究を通じた演者と研究者との交流の実態が改めて確認できた。

これまで詳細不明であった書入れ本の署名者(演者)の経歴を明らかにし、また、作品の上演に関わる資料を充実させることで、「豊竹山城少掾旧蔵資料」や「山城少掾文庫」の価値の再発見にも繋がるものと思われる。

本研究で特に重点的に行ったのは浄瑠璃専門雑誌の調査で、研究開始時点では把握していなかった雑誌や、公的機関に所蔵を聞かない新出雑誌を含めた以下の20種以上の雑誌の調査を終えることができた。

「義太夫雑誌」明治 26 年 1 月～、編輯兼
発行人 岡田廉次、発行所 義太夫雑誌社（東
京）

「浪花名物 浄瑠璃雑誌」明治 32 年 2 月～
昭和 20 年 2 月（全 425 号）発行兼編輯人 樋
口伊兵衛 / 樋口虎之助、発行所 浪花名物 浄
瑠璃雑誌社（大阪）

「浄瑠璃文庫」明治 42 年 1 月～、発行兼
編輯人 本郷菅彦、発行所 日本浄曲会（京都）

「近松会雑誌」明治 43 年 7 月～43 年 12 月
（全 6 号カ）編輯兼発行人 和田次郎、発行
所 近松会事務所（大阪）

明治 43 年 9 月京都浄曲会と合併。

「義太夫界」（奥付には「義太夫界雑誌」
とも）明治 44 年カ～、発行兼編輯人 近藤一
雄、発行所 東都義太夫会（東京）

「義太夫趣味」（竹の友改題）大正 6 年カ
～、編輯兼印刷発行人 久保井卯三郎、発行
所 竹友会（大阪）

「浄瑠璃世界」大正？～昭和？、発行兼編
輯印刷人 石井房吉、発行所 浄瑠璃世界社
（京都）

「義太夫研究」大正 10 年 6 月～、編集兼
発行人 勝田重太郎、発行所 義太夫研究社
（東京）

「声曲界」大正？年～、編輯兼発行印刷者
中村米吉、発行所 声曲社（大阪）

「浄瑠璃月報」大正 14 年～、発行人 中西
彌三郎、発行所 浄瑠璃月報社（久留米市）

「義太夫界」（音曲浄瑠璃之司）昭和 3 年 2
月～、編輯兼発行印刷人 近藤一雄、発行所
義太夫界雑誌社（東京）

明治後期の「義太夫界」（東京）の後継
誌カ。

「太棹」昭和 3 年 6 月～昭和 18 年？、編
輯兼発行人 富取壽鹿、発行所 太棹社（東京）

「鎮西浄瑠璃雑誌」昭和 4 年春～5 年 2 月
終刊カ、編輯兼発行人 石橋栄次郎、発行所
鎮西浄瑠璃雑誌社（福岡市）

第十号（昭和 5 年 2 月）に創刊一周年を
機に「日本浄瑠璃界」と改題する旨の記事掲
載。後継誌名は「大日本浄瑠璃界」。

「浄瑠璃時報」昭和 4 年？～、発行兼編輯
者 藤田兼義、発行所 浄瑠璃研究会（東京）

「大日本浄瑠璃界」昭和 5 年～、編輯兼発
行人 石橋栄次郎、発行所 大日本浄瑠璃界社
（福岡市）

「浄曲新報」昭和 10 年 9 月～、編輯印刷
兼発行人 津村卓男 斎藤金太郎、発行所 大
日本浄曲協会（東京）

「浄曲研究」昭和 14 年？～（昭和 46 年 1
月再復刊～）編集人 岡田道一、発行所 浄
曲研究社（東京）

「文楽芸術」昭和 16 年 8 月～17 年 11 月（全
13 号カ）編輯兼発行人 吉田徳市、発行所 文
楽社（大阪）

「文楽」（大阪）と「浄曲往来」（福岡）
が合併し発刊。第十一号より日本因協会と提
携し「日本因協会々報欄」を掲載。

「文楽」（総合古典芸能研究誌）（改題「芝
居手帖」）昭和 21 年 12 月～昭和 24 年 3 月、
編輯人 古典芸能研究会、発行人 今井龍雄、
発行所 誠光社（大阪）

「日本浄曲協会々報」昭和 22 年 1 月～、
発行所 日本浄曲協会（東京）

編集・発行人の記載なし。

②「義太夫芸能」昭和 25 年？～、編輯兼発
行人 坂本あるを、発行所 義太夫協会（東京）
八世豊竹湊太夫・野沢吉二郎らが昭和 24
年に創設した研究団体「義太夫協会」会誌。

②「文楽の友」（文楽愛好会誌）昭和 26 年 1
月～、編集兼発行人 石井常彦、発行所 文楽
愛好会（大阪市 文楽座内 レストラン・ブ
ンラク）

その他、戦後の雑誌・会報として、「人形
浄瑠璃因協会 年報」、「義太夫協会会報」、
「文楽友の会通信」、「文楽（文楽メイト）」、
「横浜文楽同好会会報」等。

上記の雑誌のうち、創刊から廃刊までのほ
ぼ全冊が揃っているとみられるのは、「浪
花名物 浄瑠璃雑誌」（大阪）のみで、国立
文楽劇場図書室で複製本の閲覧が可能であ
る。義太夫節人形浄瑠璃の中心地大阪におい
て、長年にわたって刊行され続けた同誌につ
いては、これまでも研究に活用される機会が
少なくなかったが、今回の調査を通じて、既
存の年表類に未収録の上演記録や、演者の経
歴や動向に関する記事、芸談、劇評など、依
然手つかずの貴重な情報が歴大に残されて
いることが分かった。

その他の雑誌については、創刊・廃刊時期
や、編集・発行人の経歴が不明のものも多く、
東西の機関に断片的に収蔵されているため、
これまで十分な調査がなされていなかった。
が、これらの雑誌にも、やはり各地の上演や
演者に関する貴重な情報が多数収録されて
おり、研究への活用が待たれる。本研究で網
羅的に調査を行った上記雑誌記事のデータ
ベース化は、今後の研究にとって極めて有益
な基礎資料となるであろう。

浄瑠璃専門雑誌に次いで重点を置いたの
は、浄瑠璃関係者の経歴に関する資料で、以
下 18 冊の演者名鑑を調査収集した。この他、
歌舞伎俳優や音曲関係者なども収録する「芸
人」名鑑の類や、雑誌に掲載された名鑑・名
簿なども併せると、かつて無い規模の浄瑠璃
関係者データベースとなる。

『義太夫年表』等既存の年表類や人名事典
類に立項されていない素浄瑠璃専門の演者
や、地方在住のプロの演者、素人義太夫や女
流義太夫の経歴、師弟関係等が明らかになる
ことで、これらの演者の署名入り譜本や、上
演記録等から、上演機会の少ない稀曲の伝承
の過程を推測することなども可能となるだ
ろう。

また、義太夫節人形浄瑠璃の上演を支えて
いた各地の演者組織、愛好家組織の実態や、

大阪、東京の演者とのネットワークを知ること、戦後の素人義太夫の減少や、義太夫節人形浄瑠璃受容の在り方の変化などについて考察するうえでも重要な手掛かりとなる。

個人情報に関わる人名録データベースの公開方法については、公的機関の館内端末のみで閲覧可能とするなど、慎重に検討を行いたい。

『東都 芸苑 女義太夫名花評判記』編集兼発行人 永井政一、明治 24 年、発行所 東京堂（東京）

『東京 女義太夫藝評』編集兼発行人 櫻井徳太郎、明治 24 年、発行所 博盛堂（東京）

『義太夫節 浄瑠璃人名誌 第一』編集兼発行人 樋口伊兵衛、明治 34 年、発行所 浪花名物 浄瑠璃雑誌社（大阪）

『幼聲会 第二十回記念』編集兼発行人 岩井徳次郎、大正 2 年、発行所 幼聲会（大阪）

『京都 素人浄瑠璃名鑑』著作兼発行者 辻貞治、大正 6 年、発行所 京都素義会（京都）

『京浜義太夫名鑑 第一編』編集兼発行人 豊田平吉、大正 12 年、発行所 京浜義太夫名鑑発行所（東京）

『此君帖』編輯兼発行者 鶴沢叶太郎事橋米吉、大正 12 年、発行所 鶴沢友次郎事山本大次郎方富久積会（大阪）

『伊予浄曲名鑑』編集兼発行人 岩川傳蔵、大正 13 年、発行所 合名会社松山向陽社（愛媛）

『浪花 素義 東会史』編集兼発行人 飯沼梅吉、大正 13 年、発行所 東会事務所（大阪）

『日本浄瑠璃名鑑 第一巻』編集兼発行人 田中圓三郎、大正 15 年、発行所 日本浄瑠璃名鑑社（大阪）

『浄瑠璃名鑑』著作兼発行人 石井房吉、大正 15 年、発行所 浄瑠璃世界社（京都）

『義太夫名鑑 第三編』編輯兼発行人 中山銅次郎、昭和 12 年、発行所 中山初城（名古屋）

『御大典記念 日本素義名士写真帖』編集兼発行人 戸津川佐一郎（大阪）昭和 4 年

『文楽名鑑 太夫 三味線 人形 芸題』編者 文楽研究会、昭和 18 年、発行兼印刷者 谷口正太郎、発行所 国文堂出版部（名古屋）

『文楽太夫三味線人形名鑑 昭和二十二年六月現在』（「幕間別冊 文楽号付録」）昭和 22 年、和敬書店（京都）

『日本婦人浄曲会記念誌』昭和 27 年夏、奥付なし（編集後記署名 日本婦人浄曲会事務所 和田五十鈴）

『中部日本素人義太夫番付銘鑑 創立二十周年記念』昭和 41 年、奥付なし（中部素義会 名古屋）

『新版 中部日本素人義太夫銘鑑』編集責任者 高橋勝光、昭和 49 年、発行責任者 井元都月（名古屋）

『義太夫百段全集あらすじと解説 中部素義会三十年の歴史とあゆみ』編集責任者 井

元都月、昭和 52 年、発行所 井元謙一（名古屋）

個別の研究課題としては、昭和 32 年以降上演の途絶えている近松門左衛門作「博多小女郎波枕」の大正期以降の上演史についての研究発表を行った（〔学会発表〕（2）（3））。東西の主要な機関に収蔵される譜入り浄瑠璃本や番付類、新聞・雑誌記事等の網羅的調査によって発見した既存の年表類に未収録の上演記録や芸談、劇評等から、同曲の伝承の過程や上演台本の改訂、舞台演出の実際などが具体的に明らかとなった。

また、未だ発表の機会を得ないが、大正期の京都・大阪において、浄瑠璃研究者木谷蓬吟を中心に行われていた実践的研究会「浄曲名作実演会」における近松作品復活上演の記録や出演者の経歴等についても、雑誌記事の網羅的調査や、同研究会の主要メンバーであった三世竹本錦太夫旧蔵譜入り本（国立文楽劇場図書蔵）の調査によって、これまで以上に明らかとなってきた。

このような研究方法は、他作品の上演史研究においても有効で、浄瑠璃関係雑誌記事や演者名鑑データベースの充実を図り、検索を容易にすることで、上演史研究のさらなる充実が期待される。

また、「博多小女郎波枕」上演史研究の過程で発見した坪内逍遙の文楽評（「大阪朝日新聞」大正 11 年 10 月 23 日付）を紹介し、近代における義太夫節受容の一面として、「義太夫嫌い」を公言する逍遙の義太夫節観について考察を試みた（〔学会発表〕（3））。

本研究によって、現存する浄瑠璃関係雑誌のかなりの部分を調査することができ、演者の経歴や曲目の伝承に関わる数多くの貴重な記事が未だ手つかずのまま残されていることが明らかとなった。また、上演史研究に不可欠の演者名鑑の調査についても充実した成果を得ることができ、所期の目的はおおよそ達成することができた。今後は、成果の取りまとめと公開に力を入れ、個別の研究課題についても順次発表を行う予定にしている。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 0 件）

〔学会発表〕（計 3 件）

（1）小島智章「御霊文楽座の逍遙 - 大正十一年近松二百年祭 大阪行 - 」早稲田大学演劇博物館・演劇映像学連携研究拠点テーマ研究報告会、2017 年 10 月 27 日、早稲田大学
（2）小島智章「義太夫節「博多小女郎波枕」の録音について」近松の会、2016 年 1 月 29

日、早稲田大学

(3) 小島智章「大正・昭和期における義太夫節「博多小女郎浪枕」の上演をめぐる」歌舞伎学会、2015年12月12日、共立女子大学

〔図書〕(計 1 件)

(1) 小島智章編『豊竹山城少掾展』2013年11月15日、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館、120頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小島 智章 (KIJIMA, Tomoaki)

早稲田大学・坪内博士記念演劇博物館・

招聘研究員

研究者番号：10611147